

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第5回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会

委員長 橋本晃明

■調査事項

本町の防災体制について

■調査の結果

近年、地震や風水害等、社会基盤を破壊する規模の災害が全国各地で頻発しており、本町の防災体制の現状について、担当課の説明を聞いた。

災害対策基本法に基づき、町や消防機関などの

職員で組織する「清水町防災会議」が設置されており、災害発生時には町職員で構成する「清水町災害対策本部」が設置されることになっている。

同本部は予想される災害の規模や被害に応じて3段階の非常配備体制がとられ、設置されていない夜間や休日、震度4



非常用食料として役場に備蓄されている災害救助用クラッカー

以上の地震が発生した場合に防災担当職員が登庁し、情報収集にあたる。災害時緊急物資備蓄計

画では、平成17～21年度の5か年で非常用食料のクラッカー1750食、非常用毛布500枚を備蓄予定。

防災計画については、昭和37年に策定され、昭和60年を最後に大きな見直しが行われていない状況で、見直しが必要と認識しているが、優先する

て十勝ブランドのチーズは現在10億円規模に成長している。同工場は、国内最大級のナチュラルチーズ工場ということで、十勝の新鮮な空気や水で育った乳牛からの生乳を基に、1日約500トンの生乳から約50トンのチーズを生産。そのうち半分以上

■調査事項

酪農産業の現況について

■調査の結果

平成20年3月の雪印乳業株式会社清水工場閉鎖に伴い、清水町内の生乳は、現在、芽室町の明治乳業株式会社十勝工場へ出荷されているため、当町の生産牛乳出荷の現状を確認するとともに、出荷

先の同工場視察を行った。明治乳業株式会社は、海外原料用チーズの異常高騰などの問題から、輸入からの置き換えによる量の安定確保を目的にチーズ事業を拡大。チーズ作りが盛んなヨーロッパの地中海地方によく似た気候や風土をもち、酪農業が盛んな十勝での

産業厚生常任委員会

委員長 森田慎治



明治乳業(株)の十勝工場チーズ館では最新鋭機械でのチーズ生産を見学できる

て十勝ブランドのチーズは現在10億円規模に成長している。同工場は、国内最大級のナチュラルチーズ工場ということで、十勝の新鮮な空気や水で育った乳牛からの生乳を基に、1日約500トンの生乳から約50トンのチーズを生産。そのうち半分以上

閉会中の委員会活動

- 総務文教常任委員会
- ①旧小学校施設の利活用について
 - ②他所管に関する事項について
- 産業厚生常任委員会
- ①農畜産業の振興について
 - ②農作物の生育状況について
 - ③他所管に関する事項について
- 議会運営委員会
- ①議会の運営とその諸規定について
 - ②議長の諮問に関する事項について

の生乳(約280トン)を清水町からの生乳が占めている。なお、十勝工場で生産されたチーズは長野県軽井沢工場に出荷され、製品化して全国で販売されている。